

心の健康を支援

ヒューマネット

トゥゲザーと業務提携

岐阜県内の製造業向け

【岐阜】ヒューマネット（岐阜県各務原市、坂田弘子社長、058・379・2666）は、トゥゲザー（同関市）と企業向けのメンタルヘルスサービス事業で業務提携した。両社は協力し、うつ病など企業で増えている精神的な労働災害を防ぐためのサービスを展開する。9月から主に岐阜県内の製造業を対象に営業を始め、初年度60件の成約を目指す。

具体的には、従業員支援プログラム（EAP）と呼ばれる企業向けのプログラムをもとにしたサービスを提供する。EAPはカウんセリングなどを通じて精神面から従業員を支援するもの。

トゥゲザーは、医療法人の明萌会（同関市）が出資・設立した企業で、個人向けのメンタルヘルスサービスを行っているが、うつ病など心的労災が企業で増えている状況からEAPを活用したサービスを05年に始めた。だが、企業への営業力がないため、十分な事業展開ができなかった。

一方、ヒューマネットは人材派遣や各種企業経営サポートを展開している。多くの企業とかわ

ト事業の一環としてEAPに着目していた。EAPを核にした事業を展開したいという両社の思惑が一致した。まずヒューマネットが自社員への福利厚生としてEAPを導入し、実体験を通じてEAPに関する知識を深める。その後、自

社の顧客を中心に幅広い企業への営業を行う。契約成立後は、トゥゲザーが企業にEAPを実施する仕組みだ。ヒューマネットでは特に「工場で心的労災が自立つ」（坂田誠専務）とし、製造業を中心に営業活動を展開する。